水野出羽守殿御渡

大目付
御目付　江

江戸音羽町六丁目俗醫

谷治兵衛
今泉總右衛門

右之者共、上野下野信濃陸奥出羽國城下、并宿場在々町々、其外迄も、朝鮮種人參相對直段を以、賣弘候旨、當八月中相觸候外ニ、此度伊豆駿河甲斐遠江三河佐渡國迄、前書之五ヶ國共、都合十一ヶ國、右同樣之賣弘方を以、藥店迄も、人參賣弘申渡候書面之國々江、江戸本町住居之人參下賣共、其外傳馬町組住居之藥種屋、并南傳馬町伊勢町住居之下賣共よりは、人參賣渡間敷旨、追而是まで之通爲賣渡候節は、可及沙汰之段申渡候、右治兵衛、總右衛門、相對直段を以、人參賣弘め候筈に候間、其旨可相心得候、〇中略

右之通可相觸候

〔享保集成絲綸錄三十九〕元文元辰年十一月

申渡之覺

朝鮮人參之莖葉

右者病用ニ付、人參服用致し度存候而も、調候儀難儀之者、右人參之くき葉服用致度願候ハヾ、被下之候間、病人之好身之ものに、家主成共名主成共壹人附添、下野守樣御番所江罷出可相願候、尤二度目よりは、壹人罷出頂戴致候樣可致候、曾而六ヶ敷事ニ而は無之候條、此旨町々江可被申聞候、以上、